

まち会だより

2017

夏号

VOL. 33

発行:特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

e-mail:mail@machikai.org URL:http://www.machikai.org

まち談部会

部会レポート 鉄矢悦朗

「まち談」部会は、2015年より準備を始め、実働は2年目の部会です。部会活動の目的は「持続可能なまちづくりや地域のデザインに向け、現代社会に一石を投じている実践者を講師に迎え、実践現場の経験を踏まえ、あらたな知恵と視点、尽きないチャレンジ精神などを参加者とともに探究すること。」としています。約1時間半の講師のお話の後30分程度の講師の方を交えての談義を行っています。募集規模は、30人程度としており、顔の見える距離のまち談ができればと思っております。参加費は、資料代700円(学生350円)。

2017年のまち談 第3回のチラシです。↓

「まち談」
持続可能なまちづくりや地域のデザインなど、現代社会に一石を投じている実践者を講師に迎え、あらたな知恵と視点、尽きないチャレンジ精神などを参加者とともに探究してみませんか？
参加費300円(学生350円)、NPO調布まちづくりの会メンバーは無料。
定員30名、希望者はメールのみ。
Eメールで申し込み、申し込み受付いたします。
*宛先: machi@u-gaia.jp

第3回 小林洋子さん (まちのおやこテーブル代表)
日時: 5月20日(土) (14:15~16:15)
場所: 調布市文化会館たづくり 10階1001学習室
一集うことからー コミュニティーのデザイン

任意団体 まちのおやこテーブル代表、コンサルティング会社勤務。共働き時代に仕事と子育てを両立するには地域コミュニティが重要と実感。子育てしながら自分らしく社会の実現に向けた地域コミュニティ形成を目指し、会社勤めと子育ての傍ら、「まちのおやこテーブル」の呼びかけとして活動。2013年12月に活動を開始し、2015年7月に任意団体を設立。延参加人数353人。(2014/9-2016/6)。
<http://machinooyako.com/>

NPO 調布まちづくりの会メンバー無料です。主催は、NPO 法人調布まちづくりの会 とし、共催に調布市、そして 後援が東京学芸大学となっております。

2016年は、下記の5名をお迎えして、5回、延べ115名の参加者でまち談をすることができました。

- 第1回(2月) 坂東幸輔さん
ー地域を育む人たちの話、建築が参加する地域の景観づくりー
- 第2回(3月) 椎原晶子さん
ー谷中らしさの育て方/らしさ考ー
- 第3回(5月) 石井健郎さん
ーナノダから見える「まちづくり、まちづかい、まちづきあい」ー
- 第4回(7月) 遠藤幹子さん
ー社会の見かた、捉えかた、そして自然体で動くこと、つなぐことー
- 第5回(9月) 桂有生さん
ー「まちが好きになる」横浜の都市デザインー

2017年は、もっと調布から踏み出して、現場を見ようという動きとなっております。第1回(1月)、第2回(3月)は終わりました。

- 第3回 5月20日(土) 小林洋子さん
 - 第4回 7月8日(土) 宮下美穂さん
 - 第5回 9月9日(土) 和久倫也さん
- と残る3回は参加者募集中です。
皆さんの参加をお待ちしています。



開催済みの「まち談」～ご参加ありがとうございました～

第1回 北池智一さん 1月21日(土)
*講師: 東京小企業事業創成センターKO-KO
ー地域の素材を活かすー人が暮らすまちのデザイン
株式会社かつしん代表取締役。2010年7月に株式会社かつしんを設立。多摩地区を中心に、まちに暮らす人たちが集い、語りあう場づくりを行っている。「らしさ」の現場でビジネスをつくる。東京小企業事業創成センターKO-KO(TO)「コレがのど」の場を共に学ぶ。ちいせいのえんがや敷居「リノア」する地域の教育「00+」東京の街、まちをつくる。活用コアアス、などの事業がある。

第2回 泉田智子さん 3月11日(土)
*講師: 調布市文化会館たづくり 10階1001学習室
ー大切なものは何かー 問いながら動くこと
*NPO AFU FURNISHING 代表、建築士、イラストレーター。文化を愛する飲食店WORLD KITCHEN AFU、ALDIや外国産食品卸売店などの事業に携わった。2010年よりまちとビジネスプランコンテストで「暮らし文化財」(旧「下町事務所」)が自力開拓で建て直されたことで事業を支援。先人が残してきたものの「コト」を学びます。手あかを重んじている。先人が残してきたものの「コト」を学びます。手あかを重んじている。先人が残してきたものの「コト」を学びます。手あかを重んじている。

映画のまち調布部会

部会レポート 宇根直次

調布市の文化面でのまちづくりとして、市が推進する「映画のまち調布」にふさわしい事業を行うことで発足した部会も10年余となりました。2017年度も次の2つの事業を調布市共催で行います。

■ 2017年度調布市平和祈念事業 映画「少年H」上映会を協賛します

期日:2017年8月5日(土) 10:30 14:00 18:30 の3回

場所:調布市文化会館たづくり2階くすのきホール

入場料:小中高生共前売り・当日 300円 一般前売り 500円 当日 700円

映画の概要:

1997年に発表されベストセラーを記録した、妹尾河童の自伝的小説を実写化したヒューマン・ドラマ。戦前から戦後までの神戸を舞台に、軍国化する暗い時代、「戦争」という激流の渦に巻き込まれながらも、勇気、信念、愛情をもって生き抜いた家族の姿を見つめていく。上映時間 122分 2013年公開作品

監督 降旗康男 原作 妹尾河童『少年H』(講談社刊) 出演 水谷豊・伊藤蘭・吉岡竜輝他

■ 中学生対象・シネマ体験ワークショップ 第8回「調布ジュニア映画塾」を開講
プロの映画監督、脚本家をお呼びし、脚本の作り方、カメラ他機材の使い方、編集の仕方まで指導します。

ワークショップ期間 平成29年7月22日(木)～8月22日(火)の10日間

募集期間 平成29年5月1日～6月28日

調布ジュニア映画塾ホームページ <http://jeiga.tamaliver.jp/>



数援隊（「数学おあそびサロン」）部会

部会レポート 森下政信

■ 「数学おあそびサロン」とは？

2004年1月に発足し、13年経過しました。主に小学5年から高校までの子どもたちに数学に親しんでもらい、楽しいものだと感じてくれることを願って続けてきました。その目的は、かなり達成できていると思っています。学習日を当初、月1回だったのを、昨年からは月3回に増やし、その効果はかなり実感できるまで来ました。自主性を育てることを主眼にしていたので、自力で頑張ってくれるように私たちは付き合っています。

参加している子どもたちは、小学生3名、中学生8名、高校生9名、そして、高卒認定資格を目指している人も参加しています。小学生の時から参加した人が多いのが特徴です。

会費などの費用は一切いりません。また、テキストも身近にある挑戦したいものを使います。会場は教育会館研修室と図書館分館集会室で、第2、第3、第4日曜日開催です。

「数学おあそびサロン」については、調布市から協賛の支援を受けています。

■ 調布の市立中学校への数学学習支援

「数学おあそびサロン」と同じころから、調布市立第6中学校と第8中学校には、それぞれ放課後または土曜日、週1回、数学の学力向上のお手伝いに、いまでも続けています。

■ 数援隊とは？

これらの支援に携わっている人たちのことで、現在は17名(男13名、女4名)です。年齢としては、60歳以上が半数ほどで、大学院生もいます。そして、数学に関する話題を採り上げ、「さんすう談話会」を最近6回ほど開催し、会員相互の交流も図っています。



学習会場の教育会館入口

景観部会～調布駅前広場、いま、むかし、これから

景観部会はまち会発足時(1996年)から、まち歩きやワークショップなどの活動をはじめ、2000年のNPO法人化後も調布市からの委託事業「景観ガイドラインに関する調査研究」など景観施策に関わってきています。調布市は、景観条例制定(2013)、景観行政団体へ移行、景観審議会において、景観計画やガイドライン(色彩編・広告物編)が策定されてきました。審議会には、まち会から委員として理事長が推薦されています。

調布市の駅前の変遷は、京王線の地下化工事(2003年より開始、2012年8月供用開始)中の中心市街地としての駅前広場の景観は大きく変化し、この間、市民参加での中心市街地・駅前広場や鉄道敷地跡地活用の検討もされてきました。景観部会で実施した2006年6月11日のまち歩き、2015年10月、2017年4月の写真を比べることで駅前広場の変遷をみていきたいと思います。

調布市が提示している駅前広場プラン2013はまだ計画途上とのことで、新たな地下駐輪場計画や樹木の伐採やたこ公園が撤去されてきています。以前のようにイベントができる特徴のある広場となるのか、鉄道敷地跡地のグリーンロードなど市民が望んでいたものになっているのか、これまでの積み重ねた議論が反映された駅前広場になっているのか、市民との協働のまちづくりが問われています。

調布駅前広場整備検討図



■ 沖縄からの一言

予期せぬ形でステージからの退場を余儀なくされ、さて、日残りて昏るるに未だ遠し——との思いでいたころ、たまたま相互塾との出会いがあり、それを機にその後まち会、午後のティーサロン、わいわいサロン、立教会等での多くの人との出会いがあり、沢山のいい仲間恵まれて、調布を舞台とした私の第2ステージはそれなりに充実した、そして楽しい十数年でした。しかし、すでに年齢80を超え、老残を晒す前に退場をと考えていた矢先の昨年末の入退院、これを機に沖縄に居を移し、そしてこの度、かねてからの計画通りに老人施設にこの身を収めることができ、ここからマイペースで自由気ままな第3ステージのスタートです。今はまだ体力回復のリハビリの他には近くにお気に入りの図書館があり、ここを勝手に書斎代わりとして午後の時間を過ごします。2階の喫茶室からは東側に太平洋、西側には東シナ海と展望もよく、ここでのコーヒーも亦至福の時です。

ブーゲンビリアをはじめ色鮮やかな花々が咲き乱れ、気温25度、沖縄のいい季節です。

(谷 健:沖縄在住)

■ 函館の景観

北海道新幹線が開通して多くの観光客が函館を訪れるようになりましたが、周知のとおり函館の景観は観光と深く結びついています。

さて、幕末1854年の日米和親条約によって函館(当時箱館)は開港貿易都市となり教会や大使館など異国情緒のある街並みが形成されました。

戊辰戦争後の新政府は明治時代に起きた大火後の街区計画でロシアのウラジオストクの街並みを模倣するよう誘導した結果、函館山麓に建つ建物の2階部分を洋風にすることで港から観ると近代都市にみえるようにし、1階部分を日本の商いや暮らしに合わせた和風にすることで独特の和洋折衷建物の街並みが特徴になっています。



函館の景観行政は1989年の函館市西部地区歴史的景観条例が1995年の函館市都市景観条例に移行し、今年から条例の検証が始まり、私も都市景観審議会委員として関わっています。人口減少問題、空き家問題、歴史的建物保全など景観に及ぼす課題は少なくなく、函館の景観行政は大きな転換期になるように感じています。

(沖崎 剛:函館在住)

編集後記

初めてニュースレターの編集を担当しました。今号では、四つの部会の活動報告に加え、市外に住む会員の方から寄稿していただきました。ありがとうございました。

さて、私は勤めている職場の関係から、他都市のごみ処理施設を見に行く機会があります。昨年秋には、熊本市を訪れました。竣工後ひと月足らずで震災に襲われた施設の視察です。建物やプラントに被害はなかったようですが、駐車場の舗装が波打つなど、地震の大きさを感じました。焼却場であることから、避難所としての位置づけはなかったにもかかわらず、近隣の施設がいっぱいになったこともあり、多くの避難者が来られたとのことでした。焼却できれば発電もできるしお湯も供給されるなど、他の避難所に比べ過ごしやすかったようです。今では、市行政として正式に避難所になっているとのことでした。翻って、勤めている施設はどうか。運転要員のための備蓄しかありません。災害時の課題の一つとなっています。災害対策について、総合的な検討が必要だと痛感しました。(井上 稔)